

議会 だより

No. 161

長野県 原村

令和7年度一般会計予算 2

中学生議会 14

3月定例会 審議から 6

一般質問 8


もっとうまくなりたい!

——
ハケ岳総合スポーツクラブ
(インタビューは16ページ)



原村議会の情報は
ホームページからも
ご覧いただけます



 マチイロ

マチイロアプリからも
ご覧いただけます



幸福度 向上へ



第1回定例会は、2月20日から3月11日まで20日間の日程で開催された。令和7年度予算は「未来の創造を支える、幸福度向上予算」とし、平成以降最大の予算規模になった。戻りたくなる村、100年後も持続可能な村づくりを進めていく。今号では、注目する予算について紹介する。

歳入は個人村民税の増加、移住定住促進による固定資産税の増加を見込み、昨年比4・9%増の9億2,570万円、地方交付税は、昨年比6・1%増の19億6,120万円とした。

歳出は、第6次原村総合計画にある5つの目標に基づき編成された。主なものは、人件費の増加、観光地域づくりの推進、生成系A1アドバイザー導入による業務の効率化、高校生応援給付金と教育支援センター支援員の増員など。その他、有線放送機器の入れ替えやゴミ処理事業への負担金、道路維持管理などに多額の費用を予算化する。今後、生成系A1の活用で効率化された時間が住民サービスの向上につながるか、観光地域づくりが魅力ある村づくり、住民の幸福度向上につながるか注視していく。

また、教育振興寄附金による小中学校へのタブレットの配置や原村学の備品整備、住民の安心安全な暮らしの実現にむけた防災・減災の村づくり条例を制定し、地域全体で災害に備える仕組みづくりを進めていく。

最終日は、令和7年一般会計予算に対して、給食費無償化に進展が見られないこと、補助金の見直しなどがされていないことなどについての反対討論があった。村長提出議案27件、委員会提出議案5件を可決し、陳情1件を採択した。

観光地域づくり推進事業

1,675万円

原村観光連盟に代わる民間組織「一般社団法人原村観光局」設立のため、会計年度任用職員1名、地域プロジェクトマネージャー1名、地域おこし協力隊2名を投入する。設立当初は観光案内やパンフレット作製など公益性の高い事業が多いため村の予算で雇用する。プロマネと協力隊は国からの交付金制度を利用。観光案内所の2名は今後の組織の経営状況（3年間程度）を見て異動する予定。当初はDMO（観光地域づくり法人）としての設立を視野に入れていたが現段階で国へは申請しない。今後、必要であれば法人が判断する。DMOという組織形態にはこだわらず地域の観光づくりをしていくことに変わりはない。

- ・地域プロジェクトマネージャー 758万円(1名) ・地域おこし協力隊 776万円(2名)
- ・原村観光組織への補助金 141万円

視点

Q 4名必要と判断した理由は。

A 設立準備委員会での検討により要望されたもの。

Q 協力隊のミッションは。

A 立ち上げ前で具体的な業務の内容は明確になっていない。

いよいよ観光連盟が解散し民間組織が設立されることになった。しかしながら見通しは不透明であり村からは多額の予算が支出される。今まで手薄であった村の観光のソフト面を充実させるべく期待は大きいですが、気を引き締めた運営をお願いしたい。また、予算支出があるということは、民間であっても村と連携した運営が求められる。村としても丸投げとならないよう綿密な連携を求め、今後の観光の展開に期待したい。

生成系AI Zevoの導入

198万円

生成系AI導入アドバイザー

176万円

DX推進のため、生成系AI導入費と外部人材の活用をする人件費。行政専用のネットワークシステムに生成系AI Zevoを導入。庁内各職員が文書作成をはじめ事業の組立やアドバイス、アイデア提示など担当業務に応じ生成系AIを利用、職員間で共有しながら幅広く活用する。このことで業務の効率化、省力化になる。また、生成系AIの実績やノウハウのある外部人材「生成系AI導入アドバイザー」の配置により職員が生成系AIの活用や可能性を学びDXの推進化を図っていく。

視点

役場職員の人材不足、負担過多の現状がある。生成系AIの全庁規模での活用は庁内のDX推進と業務の効率化により住民への対応など住民サービスの向上につながる。生成系AIの利用で少人数でも業務が滞ることなく遂行することを期待したい。



生成系AIは煩雑な業務を言語化・可視化することによって分かりやすくできることが大きな特徴です。引継ぎデータ、業務内容、資料なども正しく明文化されます。全ての職員が余裕を持って業務にあたり、残業がなくなるよう、AIの導入を進めていきたいと思います。

生成系AI導入アドバイザー
山田 智久さん

魅力ある村の基盤づくり

高等学校等就学応援品

207万円

これまで支援が手薄とされていた高校生等へ、応援品として交通系 IC カードを年 1 万円分支給する制度が新設される。年 1 万円 で 3 年間受け取れる。

高校生本人が使えること、通学に限らず買い物などにも使えることから交通系 IC カードとなった。

純粹に、高校生にも目を向けて貰えたことが嬉しい。高校生でもバイトが出来ない人もいたので助かります。



植松 蓮月さん(高2)

次世代を担う若者のために、こういった取り組みをして頂けるのは、すごくありがたいです！ 僕自身は N 高に通っているため、直接登下校で使うことはありませんが、有効に使わせて頂きます！

塩澤 共居さん(高3)



Q どのように渡すのか。

A 申請してもらい、高校生本人に窓口で渡す想定。

視点

県内では通学費の一部補助をしている自治体がある中、より公平性のある形で村独自の応援がスタートする。これまで中学卒業後は村とのつながりが薄くなっていたが、応援品を通じて高校生と村のつながりが生まれる。村への愛着形成にもつながることを期待したい。

中間教室の指導員増員

682万円



はらっぱ内 中間教室

中間教室（教育支援センター）たんぽぽを利用する児童生徒が近年増加しているため、これまでは専属の支援員が 1 名だったが、2 名に増員となる。不登校児童生徒への支援のひとつとして令和 6 年度に議会から提言していたものが反映された。学校と連携しながら、ひとりひとりの児童生徒により寄り添った教室になることを期待したい。

地域資源を活用した子育て支援事業

444万円

子ども・子育て支援センター「はらっぱ」に集落支援員 1 名を配置し、数年来の課題であったファミリーサポートセンターの立ち上げ、放課後の小学生や中高生の居場所づくりを進め、施設の有効活用を図る。

集落支援員は村と連携し、地域の子育て支援団体、地域住民の協力を得ながら、コーディネーター役となって地域の子育て支援の充実、「はらっぱ」を更なる子ども・子育て支援の拠点とするための取組み等を行う。

ファミリーサポートセンターとは

子育ての手助けが欲しい人としていたい人が、地域で助け合う相互援助の組織。乳幼児から小学生までが対象で、保育園の送迎や預かりなどを有償で援助する。地域全体で子育てを支える仕組みとして多くの市町村で導入されている。

未来を創る子どもたちへ

原村有線放送設備設置業務

8,956万円

現在使用中のセンター装置がメーカーの入替推奨期間の10年を迎えるため更新する。更新すると既存の各家庭の受信機が使用できなくなるため、合わせて導入家庭2,000台を交換する。交換費用は村負担。また、200台を新規加入者用の在庫として購入する。国からの交付税（国7割・村3割負担）の対象とするため、今までは半額負担であった各家庭に設置する受信機を村所有の無償貸与とし、代わりに加入時に利用負担金を求める形に変更する。4月からの加入負担金は今までの負担額と同程度の12,100円。

視点

有線放送の各戸への設置は、ケーブルを有線放送に利用していることからLCV加入との関係性が高い。情報の入手方法が多様になってきている現代においては、今後の有線放送の在り方についても検討を進めていく必要がある。有線放送以外の告知方法としては、LINEの配信、HP、緊急メールなどを予定している。村では次回入替時期の10年後までに次世代の告知放送の方向性を出すとしている。



情報の入手方法は過渡期であり変化がありますが、高齢者や対応できない人の為にも今の仕組みは継続した方が良いと思います。社会の状況に応じて変えていくことは必要ですが、全く新しくするのではなくその時々状況に合わせていくことが望ましいのでは。現在は、自然災害や詐欺、農家にとって重要な気象の情報などが一番わかりやすく、提供する側も使いやすいのではないかと思います。

有線放送審議会 篠原 ゆかりさん（農業）

八ヶ岳中央高原防災倉庫整備業務

5,772万円

人口が増加している保健休養地周辺において、災害時に孤立する可能性のある住民が安心して生活できるよう縦の木荘向かい側に新たに防災倉庫を建設する。敷地面積1,529平方メートル、建築面積199平方メートル、鉄骨造り平屋建て、駐車場11台。縦の木荘、もみの湯、八ヶ岳自然文化園は指定避難所であり、災害時に各避難所や住居への物資配送を円滑に行うための物流拠点とし、簡易ベッド、パーテーション、保存水、簡易トイレ、発電機などを備蓄する計画で令和7年度完成予定。



〈建設までの流れ〉

令和5年度

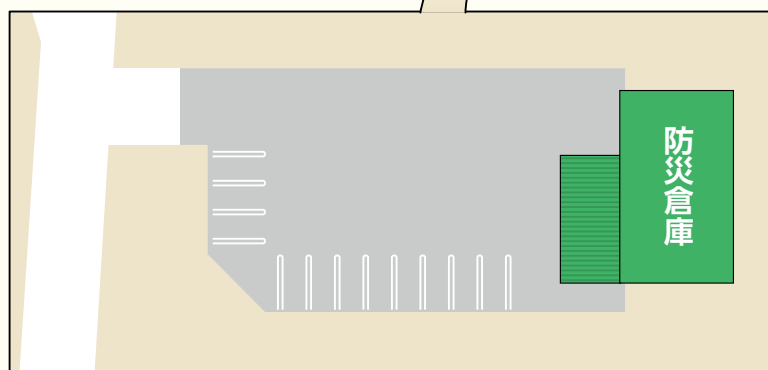
計画策定

令和6年度

基本設計・実施設計

令和7年度

建設工事



安心・安全への取り組み



賛否が分かれた議案等

○ 賛成、× 反対、△ 趣旨採択又は一部採択に賛成、
▽ 退席、－ 欠席、議長は可否同数時のみ裁決する。

《村長提出》		審議結果	芳澤清人	半田裕	平出敏廣	森山岩光	村田俊広	小松志穂	宮坂早苗	百瀬嘉徳	佐宗利江	中村浩平
議案第6号	原村国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
議案第9号	原村ひとり親家庭等の児童激励金支給条例を廃止する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
議案第10号	第6次原村総合計画基本構想の策定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第11号	原村道路線の廃止及び認定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第16号	令和7年原村一般会計予算	可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
議案第17号	令和7年度原村国民健康保険事業勘定特別会計予算	可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
議案第20号	令和7年度原村後期高齢者医療特別会計予算	可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
議案第27号	令和6年度原村一般会計補正予算（第15号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×

第6次原村総合計画 基本構想の策定

令和7年度から5年間の原村総合計画基本構想を定める。

《村の将来像》

豊かな自然と文化のもとに多彩な個性が集う
魅力ある村

《基本理念》

- 1 豊かな自然と文化が息づく村
- 2 誰もが安心して、健やかに暮らせる村
- 3 村の特色が地域と産業に活きる村

Q 基本構想の策定は必要か。

A 基本構想は将来的なビジョンであり、これがないと総合計画策定もむずかしい。

反対討論

- ・(中村) 基本構想は自治体の目標。なのに今回また抽象的な表現になっている。これだと総合計画も抽象的となり、1,200万円の委託料が無駄。

賛成討論

- ・(小松) 住民の声を聴く多くのプロセスを経て住民が大切に思うことが抽出され、反映されている。住民の思いに沿ったものであり賛成。

国民健康保険税条例の一部改正

長野県と市町村が、共同で運営を行っている。県は、保険税率統一に向け、市町村等へ納付金額を示す。市町村は、納付額に基づき保険税を決定する。令和9年度までに資産割を廃止する事が示されており、村は令和7年度に廃止する。

Q 改正による影響額は。

A 全体で400万円弱の増額。1世帯約3,500円、一人当たり2,300円程度の増額見込み。

反対討論

- ・(村田) 国保の保険料は格段に高く、全国知事会でも国庫補助増を求めている。改訂で応益分が4人家族で1万円増のケースもある。負担増に反対。
- ・(中村) 昨年に引き続きの増税案、提案理由についても納得ができない。村内の約千世帯が住民税非課税世帯の中、増税したらどうなるか分かるはず。

賛成討論

- ・(小松) 住民負担増は苦しいが、県の方針を村単独で回避することはできず、急激な負担増を避けるための段階的な引き上げはやむを得ない。
- ・(宮坂) 医療技術の向上や高額な薬等の利用により一人当たりの医療費は上がっていく。今後の激変緩和の対応に基金を使っていたきたい。

上下水道WPPP(ウォーターPPP)導入の可能性調査

2,803万円

上下水道事業は、専門的な技術職員が配置されていないことなどの課題がある。今後、適切な管理更新が行えるよう、国庫補助を活用し、導入の可能性調査を行う。

Q WPPP導入の可能性調査とは。

A 上下水道の知識や組織体制に問題を抱えているため、調査を行う。民間に任せることで人員を削減できる可能性もある。

WPPPとは

「ウォーターPPP」とは、水道や下水道、工業用水道など水分野の公共施設を対象とした新しい官民連携。PPP (Public Private Partnership) は、公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、行政の効率化等を図るもの。

防災・減災のむらづくり条例制定

災害から住民の生命、身体及び財産を守るため、住民、事業者、自主防災組織及び村の責務を明確にし、顔の見える関係づくりと安全、安心に暮らせるむらづくりを進める。

住民の共助より(要旨抜粋)

- ・ 相互協力関係の構築と地域活動に参加するよう努める
- ・ 自主防災組織に加入するよう努める
- ・ 自主防災活動に積極的に参加するよう努める
- ・ 円滑な避難及び負傷者の救護に努める

令和7年度各事務組合予算

市町村単独では実施が難しいものや、共同で実施したほうが効率的な事業や施設運営を行う組織です。原村に関係するものは左表の5組合があります。原村議会からも各組合の議事に議員として参画し、また、村では運営に必要な費用を負担しています。

一部事務組合予算総額・原村負担金内訳


単位：千円

会計別		予算総額	原村負担金
諏訪広域連合 (6市町村)			
一般会計		685,096	15,574
特別会計	救護施設八ヶ岳寮	416,173	—
	介護保険	21,216,167	137,643
	諏訪広域消防	2,849,564	156,518
	諏訪地域ふるさと振興基金事業	11,856	—
諏訪南行政事務組合 (原村・茅野市・富士見町・諏訪市)			
一般会計		87,430	6,267
特別会計	ごみ処理事業	961,925	12,175
南諏衛生施設組合 (原村・富士見町)			
一般会計		178,142	49,599
諏訪中央病院組合 (原村・茅野市・諏訪市)			
病院事業		12,339,471	74,354
老人保健施設 (やすらぎの丘)		466,086	164
看護専門学校		163,638	11,743
介護老人福祉施設 (ふれあいの里)		543,749	—
諏訪広域公立大学事務組合 (6市町村)			
一般会計		2,578,641	101

3月 定例会

一般質問

一般質問とは、議員が村政全般にわたり、執行機関に対して、事務の執行状況及び将来への方針などについて疑問点をただし、報告、説明を求めることです。
3月定例会では9人の議員が登壇し、村政課題への提言や質問を行いました。色付きの項目は本誌面で取り上げています。その他(黒字)項目については会議録をご覧ください。

<p>芳澤 清人 議員 よしざわ きよと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村長の施策 2. 農地 3. 農業振興地域整備計画 4. 農地利用権設定 	<p>森山 岩光 議員 もりやま いわみつ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小規模ほ場整備の将来構想は 2. 畑地化促進策(畑地化後の農地維持プランの考え) 3. 消防団組織改編の計画はあるか 	<p>中村 浩平 議員 なかむら こうへい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 旅館(縦の木荘)を公費で村が営業する必要があるのか 2. 縦の木荘、指定管理期間を5年延長して10年に異議あり 3. 村有地への飲食店誘致。何かがおかしい 	<p>平出 敏廣 議員 ひらいで としひろ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村道、側溝の管理等職員対応で可能か 2. 第6次総合計画策定 3. 農業対策 	<p>半田 裕 議員 はんだ ひろし</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. やりがいをもって働ける環境づくりを 2. 村独自の子ども学び・遊び・体験の充実を 3. 各種計画策定の進め方は適切か 4. 中学生議会・原村学の充実を 	<p>小松 志穂 議員 こまつ しほ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもまんなか社会の実現に向けた村の取組みは 2. 部活動の地域移行推進のための取組みは 3. 災害時の福祉避難所と自助の推進
<p>村田 俊広 議員 むらた としひろ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財政と生活支援施策の充実 2. 観光振興の今後 3. 教育費の負担軽減 4. 村の教育のあり方 5. 補聴器補助の充実 	<p>宮坂 早苗 議員 みやさか さなえ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正副区長・自治会長の役務について、行政嘱託員としての例規を整備し、地域連携するしくみを明確にする必要があるのでは 2. 姉妹都市・友好都市・都市間交流関係など、海外や都市部にも広げては 3. 子どもの権利条例を考える時期では 4. ゼロ・ウェイストについて考えては 	<p>佐宗 利江 議員 さそう りえ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 庁舎前駐車場の整備 2. 村の観光のあり方 3. 地区公民館へのWiFi整備 4. 中学校部活の地域移行 	<p>一般質問は、事前に質問内容を通告することになっています。 質問時間は、1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされています。 一問一答方式が採用されており、1項目につき2回まで再質問ができます。 一般質問は、HP・YouTubeで視聴できます。</p>  <p>YouTube 動画配信</p>		

農業整備

問 中山間総合整備事業とは

答 着工は最短27年を見込む

問 中山間総合整備事業はどのような計画、内容を考えているか。

問 土地の貸借である土地利用権設定は県の農地中間管理機構に統合されるがメリットを感じない。従来の農業委員会が土地利用権設定を仲立ちする方法はどうか。

農林課長 土地の貸借は相対で今まで通りの貸し借りが大事かと思う。農地中間管理機構の制度が始まり事務手続きを進めていく中で今後評価は注視して行きたい。

農林課長 本村が柵田地域指定を受けた高率の補助事業で国55%、県32%の実施が可能な事業。一ノ瀬汐、坪之端汐、三ヶ村汐の取水口の自動水門設置、農道舗装整備として10か所、水路補修2か所、やつがね東側のほ場整備、水田の乾田化と弓振、御射山、番飼場4地区の幹線部分の畑かん布設替え等を計画している。着工は最短で27年を見込んでいる。

地域計画



動画はこちら



芳澤 清人 議員

問 農業地域整備計画の対応は

答 農地の集積・集約化を促進

問 10年後の農業を考えると後継者不足、担い手不足は必至である。これ等課題の対応は。

農林課長 農業の担い手確保は今後積極的に就農イベント等に出向き担い手の発掘に務めたい。農地は新たな耕作者に斡旋するなど集積・集約化に努めたい。効率化を図るスマート農業導入については国県の事業が活用できるよう働きかけていく。

畑地化策

問 水張り制度の見直しを

答 新たな制度を検討する

問 水田を畑地化し、野菜・そば栽培など推奨してきているが、令和4年度から交付対象水田の考えが厳格化され、5年に一度水張りしないと交付金の対象としない方針となった。畑地化が定着してきている状況下、この水張りにより畑は湿気り良い作物は育たない。生産意欲を削ぐことのないよう制度の見直しを要望する。

問 5年に一度の水張りは廃止と言う事か。

農林課長 令和9年度以降、5年に一度の水張り要件は廃止される方向で今後、検討される。

基盤整備



動画はこちら



森山 岩光 議員

問 小規模ほ場整備の将来構想

答 見込み箇所への調査と選定

問 近年、貸したい農地はあるが未整備で条件が悪い為、借りたくないと言っている。現状を洗い出し計画性あるほ場整備をし、規模拡大・担い手農家の期待に応えるべき、例えば第1やつがね東側の整備だ。

農林課長 現在、中山間総合整備事業により第1やつがね東側のエリア3・1haを整備予定。また、ほ場整備エリア外の農地については県と連携し進めていく。

縦の木荘

問 公費で営業する必要性は

答 一定の役割りをしてきた

問 別荘開発における還元施設として県企業局から村に無償譲渡された旅館の縦の木荘。50年が経過した。これまで多額の税金を投入して来たが一体いつまで公費で営業するのか。民営化でも良いのでは。

商工観光課長 縦の木荘の収益から回収するといった考えはない。

問 法令でホテル事業は特別会計で行うとある。一般会計から修繕費をダラダラと出し続けるのではなく、一刻も早く特別会計に戻し、縦の木荘の売上金で営業すべきであるが。

商工観光課長 違法という認識がない。

商工観光課長 いままで営業を続けるといった計画はない。

問 平成30年に住民の貯金とも言える基金5億を投じて二度目の大改修を行った。この5億円は何年間で回収する予定か。減価償却は。

村有地



中村 浩平 議員



問 飲食店誘致何かがおかしい

答 予定どおり進める

問 村が公共施設を立てるため、また移転できるよう諏訪バスから購入したこの村有地。普段から住民の方も利用している。なのになぜここに飲食店の誘致をかけるのか。さらには、多くの方が特定の飲食店を挙げ「出来レースだ!」と言っている。この飲食店から話があったから事務を進めているのではないか。

副村長 出来レースではない。店を希望する声を受け、職員起案により事務を進めている。

農業対策

問 持続可能な農業実現には

答 有機農業学習の開催予定

問 近年の価格高騰への対応策と、持続可能な農業を実現するために減肥料や減農薬に向けた今後の方針は。

村長 農林水産統計の農業物価指数では令和2年を100とした指数を見れば、農業生産資材の高騰は令和3年以降高止まりとなっており昨年は120程度を推移していた。

一方で昨年は農産物の価格も高騰し、10月からは農産物価格の指数が農業生産資材価格の指数を逆転している生産者に還元されるに

は多少の時間を要するが改善傾向と考える。持続可能な農業の実現に向け国策のみどりの食料システム戦略の目標事項に貢献するために、減肥料や減農薬などの取り組みへの理解を深める必要を考えると、来年度は、有機農業に関する学習会の開催を予定し、足下の取り組みで環境負荷低減に向けた理解の醸成を図り環境に優しい農業の実現に向け取り組む。

道路管理



平出 敏廣 議員



問 自動融雪剤散布機の設置を

答 耐用年数問題点の検討必要

問 村道6187号線判之木御狩野線の県道から入った場所が冬場路面凍結で朝夕の送迎など危険である。自動融雪剤散布装置の設置の検討を。

建設課長 村内には凍りやすいところ、全然凍結は見られない場所が同じくしてあるとき見誤ると散布が行き届かない事になり、そうした箇所自動散布装置は有効であると思う。導入コスト、耐用年数などの問題を含め設置検討時には考えていく。

行政

問 適切な各計画の策定を

答 課題はあるが適切

問 第6次総合計画は予定されていた地区別座談会の3回目を実施がなく、各地区の課題をどう解決するかの議論に至らなかったが。

副村長 課題の解決策まで至らなかったのは反省すべき点。今後話す仕組みづくりを検討。

問 専門部会の進め方は適切だったか。重点施策作は事業担当課で決めたのか。

副村長 最終的な選定に専門部会や担当課は関わっていない。総務



半田 裕 議員



体験

問 夏休みのプール開放を

答 課題はあるが方法を模索

課と私どもで決定した。問 子ども子育て計画に委員の声が十分反映していない等課題が多い。策定期間を伸ばし、それでも実効性のある計画をつくるべきでは。

子ども課長 課題として認識はしているが、計画完成後に適宜調整を行い、今後の運用や評価を通じて必要に合った見直しを行う事で対応可能と考える。

問 夏休みに村が監視員を配置し、小学校のプール開放をしては。

教育長 実施すれば有意義な体験。熱中症や施設管理等課題はあるが、良い方策を模索する。

問 小学1年生にファーストボードゲームを配布しては。

教育長 遊びを通じて社会性を育む等多くの可能性がある。と認識している。しかし、住民理解が深まっていないので現時点では見送る。

防災

問 福祉避難所の体制は

答 体制整備は急務、見直す

問 災害時の福祉避難所の開設マニュアルや運営体制等は整備されているか。

保健福祉課長 平成20年に障がい者等防災・避難マニュアルを作成しているが、活用できるものや現状と合致したものになっていない。体制整備は急務であり、今後見直しを進める。

問 要配慮者には妊産婦や乳幼児も含まれる。専用の福祉避難所を設ける考えは。

総務課長 妊産婦・乳



小松 志穂 議員



子ども

問 こどもまんなかの取組みを

答 こども会議などを開催する

幼児も地域福祉センターで受け入れる想定。しかし現在のマニュアルでは妊産婦・乳幼児への言及もないため改定を含め今後精査する。

問 自助の促進のため

に、「防災・減災のむらづくり条例」の制定に留まらず、非常用トイレなど防災用品の斡旋販売を行っては。総務課長 現在の職員体制では難しい。

問 こども・若者の意見をどう聴いて反映していくか。

教育長 こども会議等を開催し、意見を表明できる機会を設け、対話する中で取組みを進めたい。

問 以前も提案した、生徒を主体とした中学校の制服や着用ルールの見直しは進むか。

教育長 令和7年度は中学校で制服検討委員会を設ける。生徒の意見を尊重し反映したい。

給食無償

問 給食費の負担増は反対

答 財政事情から慎重に

問 給食費無償化は諏訪地域でも、下諏訪で中学三年生は無料にし、岡谷で市では市長が任期中には無料化を実現すると言明した。本村での検討はどうか。

をアピールすることが必要では。まして生活が苦しいなかで給食費の負担増は受け入れがたい。無償化に比べれば大きな予算ではない給食費とその補助は。

子ども課長 材料費の高騰や運営コストの増を考慮し、給食費は小学校とも15円値上げ。補助は予定額に15円プラスして計上し、家庭の負担をできる限り軽減した。

教育長 国会において給食費の無償化が大きな論点になっている。

給食費の無償化を村単独で実施するには多くの予算を必要とする。村の財政事情や国からの支援について慎重に検討する必要がある。

問 先駆けて無償化し、子育て支援の村の姿勢



村田 俊広 議員



高校生へ

問 奨学金の充実を求める

答 より良い形の支援検討

問 高校の教育費では授業料以上に教材費その他の負担も非常に高額で、ある高校生は、30万円弱の負担となる。奨学金制度の充実など支援強化が必要。奨学金条例施行規則の経済条件は、住民税非課税世帯となっている。この条件を緩和すべきではないか。

教育長 より良い形での支援を考える必要。負担増は深刻な問題と認識しており、そのことも考えて対応していかなければならない。

行政囑託

問 行政囑託員の例規整備を

答 業務規定するか考える

問 行政囑託員として委嘱されている正副区長・自治会長の役員について、岡谷市を参考に例規整備し、地域連携、協働するしくみを明確にする必要があるのでは。

明確にする必要がある。副村長 区長の皆さんは、区長と行政囑託員という二つの立場がある。行政囑託員として、業務規定するかも含め前向きに考える。

問 ガイドブック作成とデジタル化推進に向けた考えは。総務課長 機器等の整備は、区等が自ら必要性に応じて整備できる。よう助言していく。

総務課長 区長・自治会長の役員に対し、内訓としてある原村各区等交付金交付要領に基づき行っている。

問 内訓は、公開されている例規にはなく、住民には見えない。例規を整備し、役務、個人への報酬の支払いを



宮坂 早苗 議員



姉妹都市

問 新たな都市交流の考えは

答 交流を進めたいと考える

問 今までと違う視点、環境や産業などの分野別で新たな交流を行っていく考えは。

村長 新たな交流を進めたいと考えている。国内では、一宮町と災害時における相互応援協定の締結を行う。海外では、マウンテンバイクの首都と呼ばれるアメリカのペンシルバニア州から招待を受けている。まずは、視察を行い、交流を深め、その先に姉妹都市締結があるものと考えている。



佐宗 利江 議員

問 今まで義務教育の中で当たり前に出来た部活動にお金がかかるようになり、受けられる対象が限られる。先

教育長 まだ金額は明確ではない。今後、国の動向や近隣自治体の状況を踏まえ適切な対応を検討したい。

問 来年度から生徒一人あたり月3000円程度の費用負担を予定しているが、半額にするなど段階的な移行は出来ないか。令和7年度は国の実証実験に参加しており可能では。

中学部活

問 部活動地域移行は平等か
答 負担軽減を講じる

生方の働き方改革も重要だが、子供が主役となっているか。子供たち一人一人の「いま」の為にきめ細かな対応、柔軟な姿勢が求められているのでは。

教育長 平等な参加機会の提供として経済的な背景や交通手段の違い、活動に参加できない子供が出ないことを配慮する。負担軽減を講じなくてはいけないと考えている。

地区DX



動画はこちら

問 地区公民館へのWi-fi整備

答 可能性は探っていきたい

総務課長 防災面からの整備は費用対効果により考えておらず、必要に応じ補助金を活用して欲しい。地区の業務は電子申請にするなど利便性の向上は図っていく。今後、新たな補助金など活用の可能性を探っていきたい。

問 有事の際やDXの観点から必要性が高い。また、役員業務をする中でインターネット環境が無いことが問題である。自治体によっては国の補助金で各地区に整備した例もあるが。

議会改革特別委員会の取り組み

住民の皆様の声をしかりと村政に反映できる議会となる事を目的として、今期より設置された議会改革特別委員会の活動を報告します。

政策提言の実施

住民懇談会や前年度決算を元に、9月定例会後に議員全員で協議し、今後村が行うべき政策を執行部に提言しました。これまで議会は、議案審議が中心でしたが、今後は積極的に政策を提言していきます。

議会のICT化

開かれた議会を目指しYouTubeにて一般質問の録画配信を開始。今後は本会議や委員会の配信も検討します。また、資料投影を通してよりわかりやすい議会にするため、議場にモニターも設置予定です。

議会基本条例の検討

議会の基本理念、活動原則等の基本的事項を住民に示すための条例を策定中。パブリックコメントも実施する予定です。ぜひご意見を願います。



中学生も村を考える

中学生議会開催



原中学校の総合的な時間「原村学」の集大成として、3年生がよりよい村を目指した提案や質問を行う「中学生議会」が、1月15日に議場で開かれました。中学生議会は、模擬議会として、地方自治に関心を持ち、理解を深めることを目的に開催しています。

生徒は、「PR」「福祉・交流」「人・自然・産業」「ワイン」それぞれの講座で学んできた内容から代表者が提案や質問を行い、村議がこれに答える形で行いました。

議長の感想



行田 心愛 議長

各講座の代表者が村をよりよい場所にするために、それぞれ提案できて良かったと思いました。この議会から、より良い村づくりに少しでもつながっていくのなら、村がもっと素敵な場所になっていくと感じました。



河野 陽翔 議長

僕は議長として参加しました。議会は役場にある本物の議場で行ったので独特の雰囲気があり緊張しました。普段できない経験ができて良かったです。質問できなかったことも機会があれば質問してみたいと思いました。



村がもっと良くなるために

清水 珠七 議員
(PR 講座)

答弁者 小松 志穂

問 よいしょ祭りの規模を大きくしたり、中学校のホームページを更新することでもっと村の良さが伝わるのではないのでしょうか。

答 よいしょ祭りは運営や警備面からも規模の拡大には検討が必要ですが、皆が楽しめるお祭りであるように村に意見を伝えていきます。中学校ホームページの更新権限は学校にあります。村のホームページとリンクすることは可能です。村の良さをPRできるのは役場だけではないので、昨年の3年生が立ち上げたInstagramアカウントを生

徒で引き継ぎ発信するなど、若い力でのPRにも期待します。

問 夜道を歩くと暗いので、街灯の整備はできますか。

答 村で新規に設置する予定はないと聞いていますが、具体的に必要と思う場所を地区のPTAや自治会長、役場や議員に提案してもらうことで検討してもらえる可能性があります。



原村保育園の園庭を、より安全に楽しく遊べる場所に

藤森 彩加 議員
(福祉・交流講座)

答弁者 半田 裕

問 保育園で園児と交流する中で、ブランコの数が少ない、雲梯が高くて滑りやすい等、園庭の安全管理と遊具の充実の必要性を感じた。遊具のメンテナンスはどのようになっていますか。また改修等の予定はありますか。

答 保育園の遊具は日々の保育士の確認のほか、2年に1度の業者による点検でより安全に遊べるように管理されています。園庭遊具の新設や改修は現時点では計画されていませんが、原村保育園は今年度「信州やまほいく」の認証を受けました。園庭の遊具だけでなく、近くのあやめ園など原村の

豊かな自然を遊び場として、たくましいはらっこが育ってくれればと考えます。

問 園も人手不足の中、園外に遊びに行く際に目がとどかずに怪我等があったらどうするのか。

答 保育士の増員は正直難しいが、学校応援団のように地域の人たちが園に関わる仕組みを検討できないか村に確認します。ぜひ、中学生のみなさんも引き続き保育園に関わってもらえると嬉しいです。



大企業やマネージメント会社との連携は

篠原 悠斗 議員
(人・自然・産業講座)

答弁者 百瀬 嘉徳

問 大企業やマネージメント会社と提携したりリモートワークを推進し、人の流れと地域の活性化を考えてはどうでしょうか。

答 コロナ過以降、中央高原や保健休養地で、リモートワークについての施設などの問い合わせが多く、利用したいという希望者がいます。自然環境を生かした企業誘致、公民連携で地域の活性化と移住定住に繋がれば良いと考えます。

問 原村というブランド名、ネームバリューを生かし、旧軽銀座商店街のミニ版のような商店街を作ってはどうか。

答 商店街については、造成に係る資金面、有名ブランド店の誘致等に無理があるように感じます。まずは、自然豊かな避暑地として、年間通じて訪れていただくための魅力を高めるしくみを考え、価値を高めていくことが大切だと思います。



農業を始めたい人を支えるしくみづくりを

堀内 拓斗 議員
(ワイン講座)

答弁者 佐宗 利江

問 将来原村でワイン造りをしたいと思っておりますが、耕作放棄地を紹介したり一人でも始められるようなしくみはありますか？

答 役場農政係で新規就農の相談、また県や農協なども支援を行っています。耕作放棄地の紹介もしていますが、条件の良い場合が多いです。研修に入った農家さんで土地を紹介してもらう場合もあるようです。中学校からのワインの取り組みで村の農業は大きく変わりました。ワインを通じた街づくりなど色々なことにチャレンジして欲しい

と思います。

問 耕作放棄地を放置しておくのではなく改良して使用するための支援策はありますか？

答 耕作されない理由として、水はけが悪い、石が多い、馬入れが使いづらいなどがあります。対策として暗渠排水や土の入替などすることで適する土地となる可能性がありますので、村に相談してみてください。応援しています。

き せ て か

議員が訪ねてお話を伺いました

地域も、世代も、幅広く。

佐宗 「ハケ岳総合スポーツクラブ」設立のいきさつを聞かせてください。

菊池さん 牛山現村長を含め何人かで「原村で子どもたちが活動できる場所をつくりたい」と話していました。オリンピック選手だった村長は子どもたちの運動能力が低下している」と言い、私自身も同様に感じていました。部活の地域移行という話も出ていたので、その受け皿になればという考えも併せてスタートしています。

小松 部活の地域移行についてはどのように捉えていますか。

菊池さん 「地域移行」という言葉が先行してしまっている気がします。サッカークラブは現在、原村以外に富士見や茅野の子どもたちも通ってきています。年代でいうと保育園児から高校生、さらに大人も顔を出して参加してくれています。地域も年代も幅広くできるのが総合型スポーツクラブのあるべき姿だと思うので、「部活」という枠や地域によって



佐宗 利江 議員



小松 志穂 議員



(一社) ハケ岳総合スポーツクラブ
代表理事 菊池 和貴さん

そこが狭められたりしてしまうのは残念な気がします。

佐宗 これからクラブをどのようにしていきたいですか。

菊池さん なるべく保護者の負担を減らしたいと考えています。企業に協賛のお願いもしていますが、その他にたとえば農家さんで「出荷できないお米や野菜を子どもたちに提供いただく」などということもできれば原村ならではの、ご協力いただければ嬉しいですね。

小松 子どもたちを指導されていて嬉しい瞬間というのは。

菊池さん クラブに入ったときには全然できなかったことが、時間をかけてもできるようになるのを見られるのが嬉しいです。サッカーは上手くなってもそこから一流に、さらにプロになれるような選手はほんの一握りです。でも子どもたちにはずっとサッカーを好きでいてほしい、楽しんでほしいと思って接しています。

編集後記

コロナ禍を期に人と接触しないリモート会議、テレワーク勤務など新しい方法として定着してきました。生活様式では飲食を伴う団体クラブや講など今までの古い習慣、活動などを見直すきっかけとなりました。反面、祭りなどの伝統行事や地区行事の縮小や休止、外食やレジャー等外出の制限などコロナの影響はいろいろな面で関係し大きな爪痕を残しました。

本議会は今期に広報広聴常任委員会を立ち上げました。広聴活動として従来の「議会報告・意見交換会」住民とのテーマ別懇談会「みんなの広場」等を継続し今後の村政に繋げてまいります。また、広報活動として住民の皆様が読みやすい「議会だより」の発行に力を注ぎたいと思います。

本委員会の前期は4月で終了しますが後期も引き続きよろしく願います。
(芳澤記)

議会広報広聴常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 宮坂 早苗 |
| 副委員長 | 佐宗 利江 |
| 委員 | 芳澤 清人 |
| 委員 | 森山 岩光 |
| 委員 | 小松 志穂 |

議会の傍聴にお出かけください

次の定例会は

5月28日(水)

開会予定です

- ・役場2階総務課前で受付後、傍聴席にお越しください。
- ・会期中は委員会の傍聴もできます。

[問い合わせ]

議会事務局 ☎0266-79-7951

議会だよりへのご意見をお寄せください

よりよい議会だよりづくりのため、
皆様のご意見を聞かせてください。
こちらから▶

